みそのうコミュニティ・スクールだより
アイリス
No.３　　１０月１７日号
発行者：東広島市立御薗宇小学校

「響」公演 大成功でした！

10 月７日（土）の酒まつりでの「響」公演は，地域の皆様の支えのおかげをもちまして，大成功で終えることができました。本当にありがとうございました。そして，これからもよろしくお願いいたします。

ずいぶん前の話を聞きました。

地域の皆さんの中には，この写真をみて「あっ！」と思ってくださる方がたくさんおられることと思います。３０歳前後の方は特に「おお，懐かしい！」と思ってくださるのではないでしょうか。

平成 20 年３月の卒業アルバムに載っている写真です。左から秋佐知子先生　大石充洋先生　辰巳素子先生です。初代響，当時の６年生児童は，２クラス合わせて４１名でした。それから延々と受け継がれ，17 代目の６７名を合わせると，これまで８３１名の児童が演じてきました。

大石先生から，頂いたお手紙です。

ふるさとに響け　わが心

今年で１７代目を迎える「響」。先日も，酒まつり会場で素晴らしい演奏を披露されたと聞いております。まことにおめでとうございます。

私は，「響」創成期にあたる初代，４代目，５代目に関わらせていただきました。「学習発表会で，地域のつながりや和文化の良さを表現できる発表はないだろうか。」と，辰己先生，樋高先生，秋先生と頭を突き合わせて考え，辿り着いた答えが和太鼓でした。

とは言え，学校にある和太鼓は４つだけ。これではとても演奏できません。そこで，竹太鼓を作ろうということになりました。地域の方に相談すると，太くてまっすぐな竹を切り出してくださいました。その竹に細工を加えていただき，立派な竹太鼓ができあがりました。４つの和太鼓と４本の竹太鼓。これが，「響」のはじまりです。

また，「響」の構成を考える際にも，地域の方に助けていただきました。学校のそばにある吾妻子の滝にまつわる話を取り入れたいと考えていたところ，地域の西森様から観音踊を紹介していただきました。「吾妻観音由来をとけば～」の口説きでお馴染みの，観音踊です。観音踊の歌詞の内容を土台に初代「響」を構成していきました。ちなみに，観音踊はその後，西森様の指導のもと，実際に踊りを披露することができるまでになりました。

翌年。２代目「響」は，吾妻子の滝公園の開園セレモニーで，滝をバックに生演奏も披露しました。この頃から太鼓の数が少しずつ増えてきました。中でも樽太鼓は西森様が集めてくださり，手入れの仕方まで教えてくださいました。また，竹太鼓の手入れや修繕は，菊作りも教えてくださっていた蔵田様がやってくださいました。

こうして，代を重ねるごとに少しずつ充実してきた「響」ですが，その歩みは地域の方の御協力なくしては語れません。詩吟を御指導くださった武則様，アコーディオンの弾き方を教えてくださった吉田様，菖蒲の前の歌詞を書いてくださった藤井様をはじめ，多くの方に支えられながら，「響」は成長していったのではないかと思います。

練習では，子どもたちに，「響」を支えてくださる地域の方の思いを様々な場面で伝えました。その思いを自分の心の一番大切なところにおさめ，ふるさとを大切に思う「わが心」として和太鼓演奏，詩吟，踊にこめてほしい。ふるさと御薗宇に響かせてほしい。そう願いながら，子どもたちと共に「響」に取り組みました。

「御薗宇に自慢できるものが増えたよ。ありがとう。」

これは，ある時，地域の方からいただいた言葉です。いつも支えていただいて感謝しなければならないのはこちらなのに，身に余る言葉をいただいたのです。この時の嬉しさと，身の引き締まる思いは今でも忘れられません。子どもたちもきっと，同じ思いであったと思います。

「響」を通して地域とつながり，ふるさと御薗宇を大切に思う心をもって暮らしていく。いつしか，我が子も「響」を演奏するようになり，親子に渡って「響」にかかわっていく・・・。そんな光景が見られるのは，そう遠い先の話でもないように思います。

ふるさとに響け　わが心

御薗宇には，ふるさとを大切に思う人の心が，これからも響き続けることでしょう。

大石　充洋